

令和6年度学校関係者評価書

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校

第3回学校運営協議会（令和7年2月21日18:00～ 八田中学校会議室）

<学校運営協議会委員>

- 会長 穴水 秀人（学識経験者 元小中学校長）
- 副会長 穴水 健二（地域有識者 元八田小・中学校PTA会長）
- 委員 土橋 秀徳（住民代表 自治会長会代表）
- 笹本 学（住民代表 元小中学校校長）
- 湯沢 信（地域有識者）
- 貝瀬 修二（地域有識者）
- 角田 珠菜（保護者代表、R6年度小学校PTA会長）
- 清水 芳文（保護者代表、R6年度小学校PTA副会長）
- 藤巻 孝也（八田小学校後援会長）
- 井上 孝雄（八田地区学校応援団コーディネーター）
- 樋川 純一（市青少年育成会議八田支部長）
- 長澤 廣秋（八田地区地域コーディネーター）
- 石原 裕（小学校校長）
- 川手 昌英（中学校校長）

※生徒・保護者・教職員を対象に行ったアンケートを基に作成した「自己評価書」をベースとして、

成果を検証し、次年度へつなげるように、ご意見をいただきました。

八田地区学校運営協議会 学校評価意見まとめ

【小学校】

(1) 学習保障と学力向上のための取組

- ・パーセントが多少下がっているが、誤差の範囲である。日々の地道な授業実践が必ず実を結ぶ。
- ・スリンプルプログラムは、良い取り組みだと思う。ただ、全学年となると、下の学年ほど結構緻密に計画しないと実践が大変だと思う。がんばってほしい。自分の考えを伝えることが当たり前になるためには、自分自身の問題であると同時に、取り巻く環境の在り様も大切である。この実践で、自分の考えを伝えることや人の話をきちんと聞くことの習慣がつくことを期待する。それがきっと学力（人間力）向上につながる。
- ・小学生というまだ社会経験が少ない段階だと「伝える、関わる」ことの重要性が理解できず、発表する児童の割合が固定化している。学習は1つの方法にこだわらずに、ICT機器を効果的に用いることも重要。思っている以上に多くの学習に関わるサイトがある。

(2) いじめ・不登校に対する取組

- ・教師・生徒間や生徒間の人間関係が昨年より円滑であることが伺える。
- ・数値は低いが、10人前後の生徒が、「学校が楽しくない。」「先生に相談できない。」らしい。これはこれで教師が今後努力すればよいことだが、この生徒が誰なのか予想がつくのでは？ピンポイントで人間関係を含め、可能な限り分析をするべき（所謂ケース会議）だと思う。
- ・いじめは、「された方」より「した方」に話をしっかり聞くべき
- ・学校が楽しいと思わない子が8%いる事実が驚愕です。学習面なのか対人関係なのか「勉強ができなくても友達と遊ぶのが楽しい」環境であってほしい。いじめの認知件数が増えているという事実と重ねてみると、早め早めの対応をお願いしたい。

(3) 地域に開かれた学校づくり・コミュニティ・スクールの定着に向けた取組

- ・小中連携に係るアクションについては、毎年継続していただいているようで、子どもたちにとっても良い経験になっていると思う。
- ・「グランドデザイン」を意識した取り組みについては、「目指す子ども像」に近づけるため、その推進を9年間というスパンでどのように教育課程に位置付けるかということに尽きる。
- ・サポートティーチャーは賛成
- ・CS や小中一貫教育の周知について、PTA 総会の折に会長にあいさつをしてもらったり、小学校で行っている中学校の教師による授業を保護者の方に参観してもらったりするような機会を設けたらどうか。
- ・スマホについては所持率が小学校でも増加傾向にあるので、まさに小中の連携が必要ではないか。2年前の「教育を語る会」でまとめた提言を配布することや、SNS にかかわる指導を小学校から継続して行うことが必要だと思う。
- ・八田地区には、素直な子が多い。保護者や先生方に感謝。
- ・小中一貫に関しては児童生徒にも意見を聞いてみることもよいのではないかと。意外といろいろな意見が出てくると思う。

(4) その他

① あいさつを基本とした、伝える力の育成、人間関係の基盤づくり

- ・同感。違った個性を持つたくさんの人と関わるのが子どもたちにとって財産となる。「教科担任制」「縦割り活動」「ク

ラスにこだわらない学年活動」等活動形態を工夫するすることが大切である。

- ・あいさつをととてもよくしてくれている。車を運転している時でも、道をゆずった時に会釈を返してくれる子供が多くありがたい。
- ・下校時の見守りをしているが、あいさつができない子が増えているようにも思われる。

②自己評価全体を通して

- ・学校運営の改善に向けた PDCA サイクルが機能していると感じた。また、課題に対する対応が具体的に示されており、今後の取組に期待が持てる。今後も地域住民や保護者の意見を積極的に取り入れながら、学校運営の改善を進めていただければと思う。

【小中共通】

- ・学校評価を分析する視点として、小中学校間の先生方の自己評価の違い、教師の自己評価と児童生徒アンケート・保護者アンケートの違いなどについても気になる点があれば示してもらいたい。
- ・中学校で家庭学習が改善された点は素晴らしいことだと思う。ただ、昨年度課題に出ていた学年間の差や小学校との認識のずれはどうかなど、さらなる改善に向けての取組みは必要ではないか。
- ・キャリア教育は、自分の将来を考えるうえでとても大切なことであるので、小中連携の中で推進して行ってほしい。

【小学校】<いただいたご意見ご感想から 次年度に向けて>

○3学期から取り組んでいる Simple プログラムについては、取り組み状況について定期的に成果や課題について共有し、発達段階や実態に応じたものになるよう取り組んでいく。

○小中一貫教育推進研究会の教育課程編成部会で、9年間を見通した教育課程の編成について取り組んでいる。他の部会の中でも9年間を見通しながら、小中の取組についての情報共有と、目指す子供像の実現に向けて、どのようなアプローチの仕方があるのか継続して研究する。また、小中一貫教育の柱となるカリキュラム(生活科と総合的な学習の時間)を作成し、地域を知り、地域を愛し、地域貢献について考えていけるような児童生徒の育成を目指していきたい。

○学校生活を楽しく感じていない子供は、どのようなことが楽しくないのか、学習面でのつまずき、人間関係などを見取り、改善していく必要がある。教科担任制を推進する中で、学習者主体の授業や個別最適な学び、協働的な学びのさらなる充実を図るとともに、多くの教職員の目で日常的な声掛けをし、子供が相談しやすい環境づくりに努める。また、学年職員や生徒指導主任、管理職と情報共有を行い、実態を把握する中で組織的な対応を継続していく。

○スマートフォン(携帯電話)やタブレットのルール作りについては、市の生涯学習課と連携を図る中で、保護者が学習する機会の周知を図るとともに、県教育庁生涯学習課「ほっと!ネットセミナー」を活用し、子供・保護者・教職員がともに考える機会をつくる。

○八田小中一貫教育の周知について、いただいた意見を参考に、定例の二校会の中で検討していく。